

年は46,226人と前年に比べほぼ横ばいであったものの、15（2003）年と比較すると、検挙人員では約1.5倍、犯罪者率では約1.2倍となっている。一方、高齢者の犯罪者率は近年減少傾向となっている。また、25年における高齢者の刑法犯検挙人員の包括罪種別構成比をみると、窃盗犯が73.7%と7割を超えている（図1-2-6-11）。

(5) 高齢者の日常生活

ア 生きがいを感じている人は約7割

60歳以上の高齢者が生きがいをどの程度感じているかについてみると、「十分に感じている」人と「多少感じている」人の合計は約7割である。男女別にみると、女性（67.2%）に比べて男性（63.7%）が低くなっている（図1-2-6-12）。

イ 毎日の生活を充実させて楽しむことに力を入れた人が多い

今後の生活で「貯蓄や投資など将来に備え

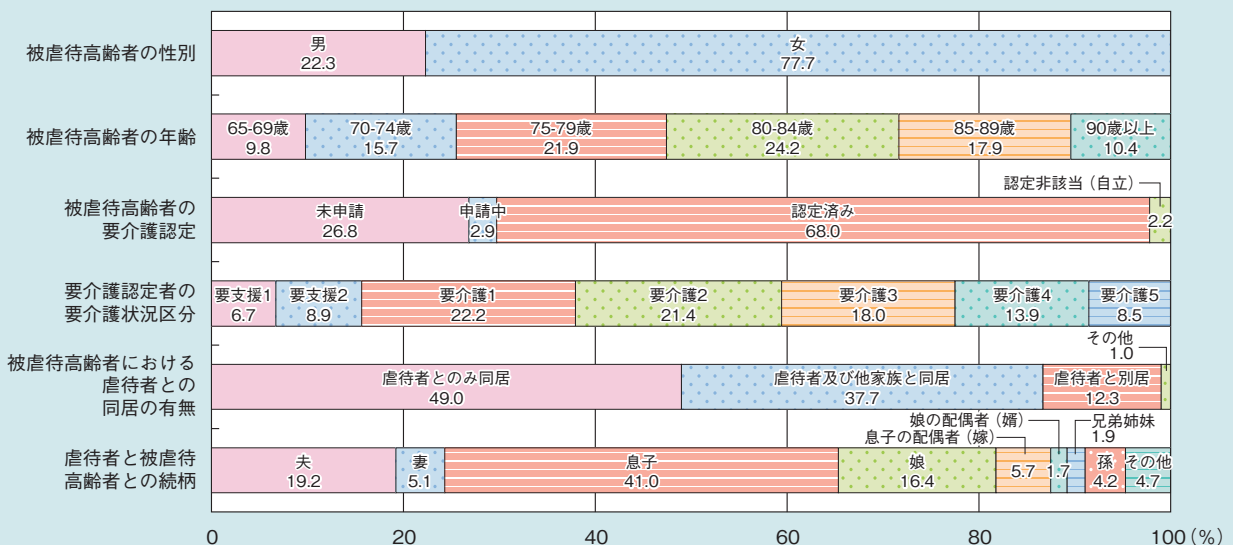
る」ことよりも「毎日の生活を充実させて楽しむ」ことに力を入れたい人の割合は、60～69歳は77.0%、70歳以上は83.1%であり、50～59歳では約5割、49歳以下の各層では4割前後であるのに対して、60歳以上の各層の割合は高い。また、平成15（2003）年と比べると、約7割から約8割に増加している（図1-2-6-13）。

ウ 一人暮らしの男性に、人との交流が少ない人や頼れる人がいない人が多い

60歳以上の高齢者の会話の頻度（電話やEメールを含む）をみてみると、全体では毎日会話をしている者が9割を超えるものの、一人暮らし世帯については、「2～3日に1回」以下の者も多く、男性の単身世帯で28.8%、女性の単身世帯で22.0%を占める（図1-2-6-14）。

近所づきあいの程度は、全体では「親しくつきあっている」が51.0%で最も多く、「あいさつをする程度」は43.9%、「つきあいがほとんどない」は5.1%となっている。性・世帯構成

図1-2-6-10 養護者による虐待を受けている高齢者の属性



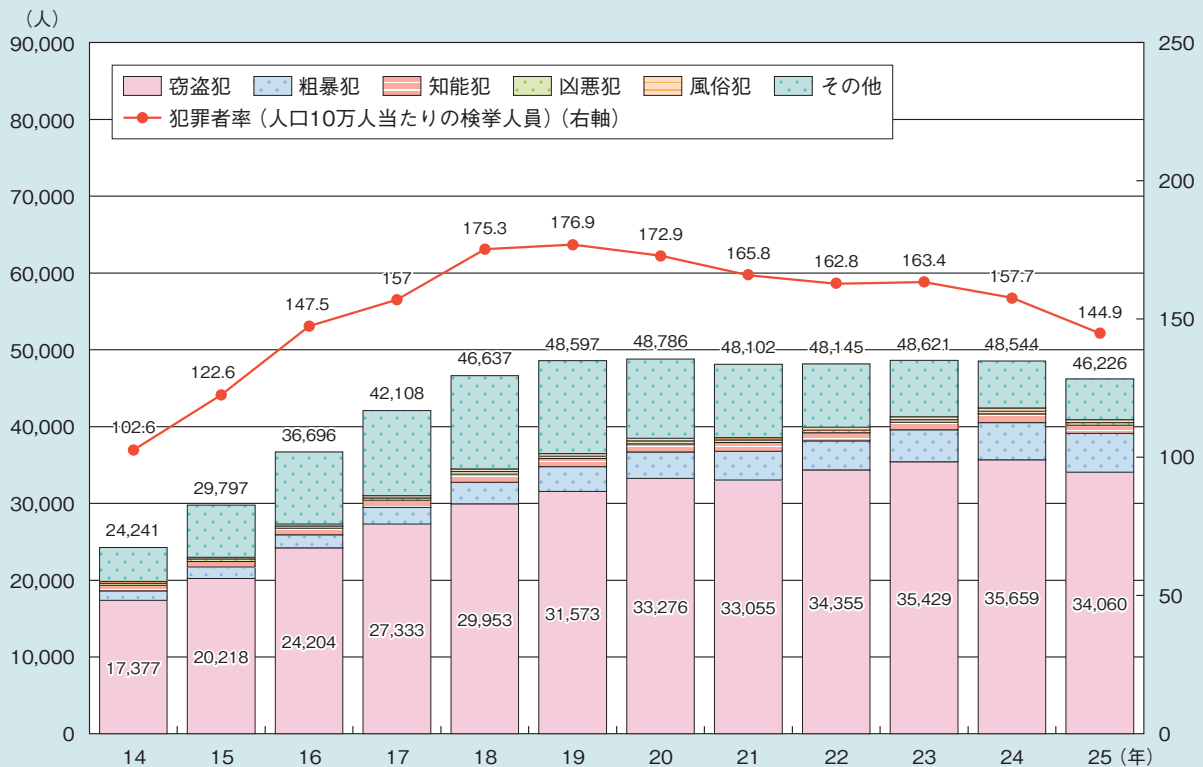
資料：厚生労働省「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」（平成25年度）

別に見ると、一人暮らしの男性は「つきあいがほとんどない」が17.4%と高く、逆に一人暮らしの女性は「親しくつきあっている」が60.9%と最も高くなっている（図1-2-6-15）。

また、病気のとときや、一人ではできない日常

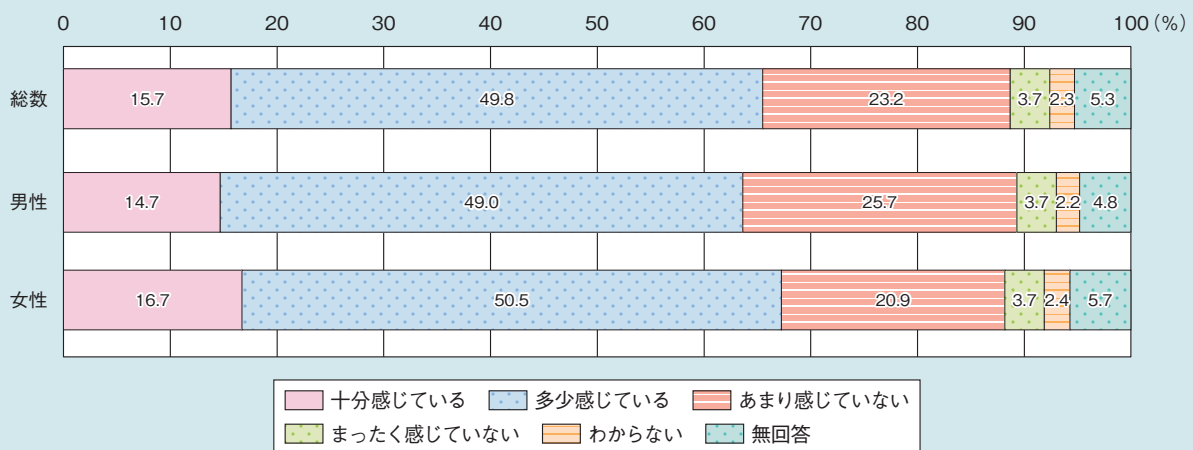
生活に必要な作業（電球の交換や庭の手入れなど）の手伝いについて、「頼れる人がいない」者の割合は、全体では2.4%であるが、一人暮らしの男性では20.0%にのぼる（図1-2-6-16）。

図1-2-6-11 高齢者による犯罪（高齢者の包括罪種別検挙人員と犯罪者率）



資料：警察庁「平成25年の犯罪情勢」

図1-2-6-12 生きがいの程度

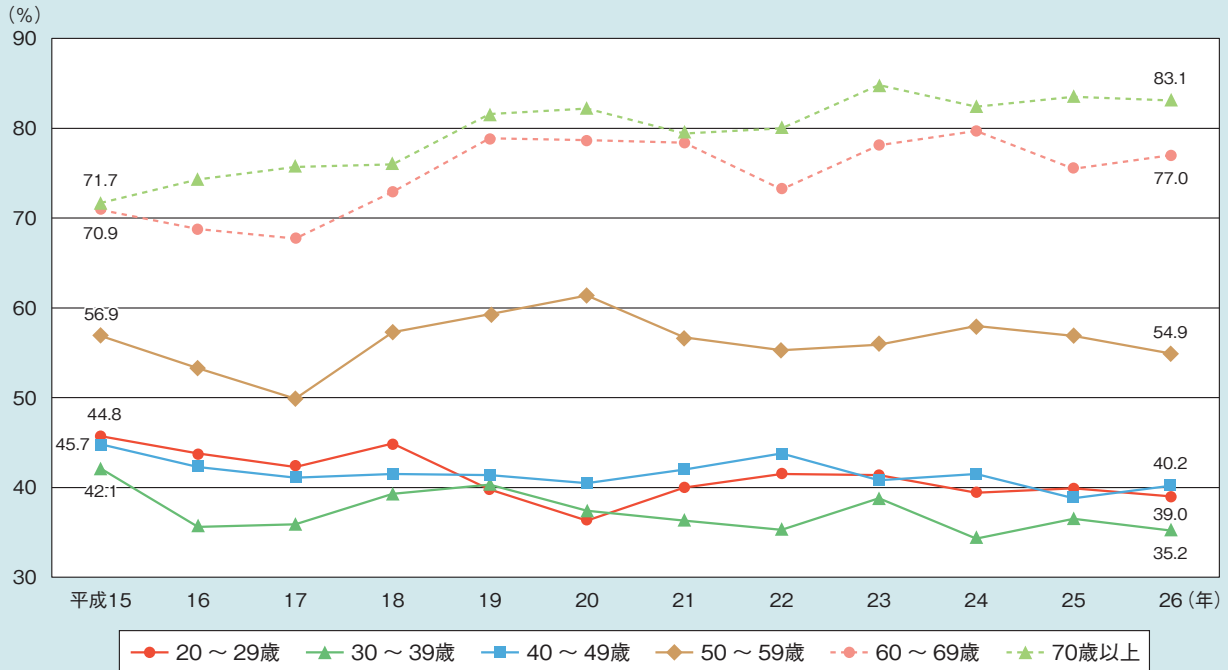


資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成26年）
（注）対象は、全国60歳以上の男女

エ 孤立死と考えられる事例が多数発生している
誰にも看取られることなく息を引き取り、その後、相当期間放置されるような「孤立死（孤

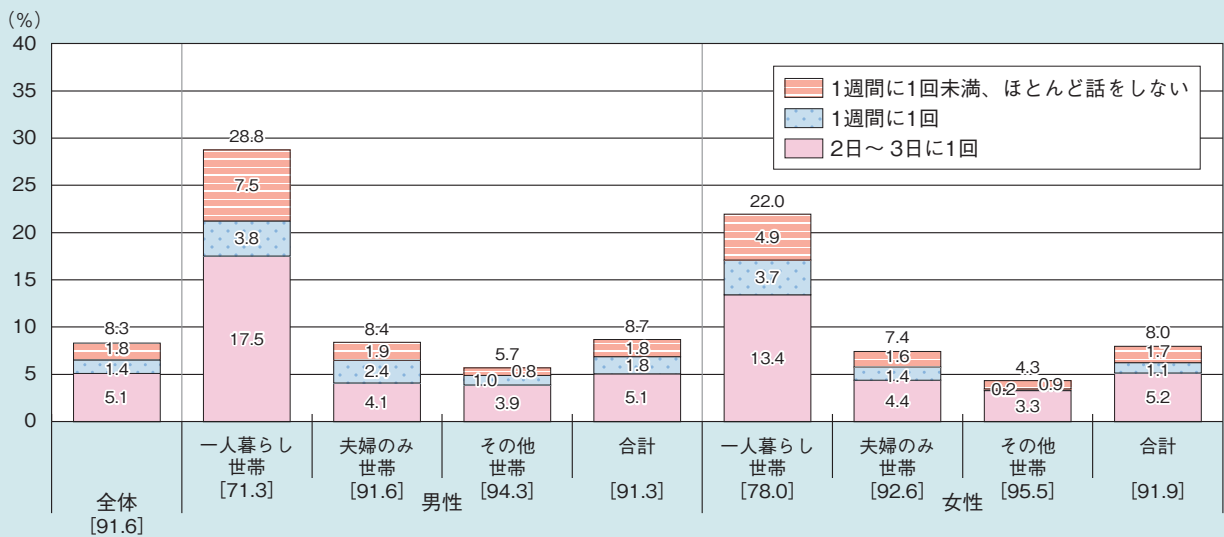
独死）」の事例が報道されているが、死因不明の急性死や事故で亡くなった人の検案、解剖を行っている東京都監察医務院が公表している

図1-2-6-13 生活を充実させて楽しむことを重視する人の割合



資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」

図1-2-6-14 会話の頻度（電話やEメールを含む）



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」（平成23年）
 (注1) 対象は60歳以上の男女
 (注2) 上記以外の回答は「毎日」または「わからない」
 (注3) [] 内の数値は「毎日」と答えた者の割合

データによると、東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成25（2013）年に2,869人となっている（図1-2-6-17）。

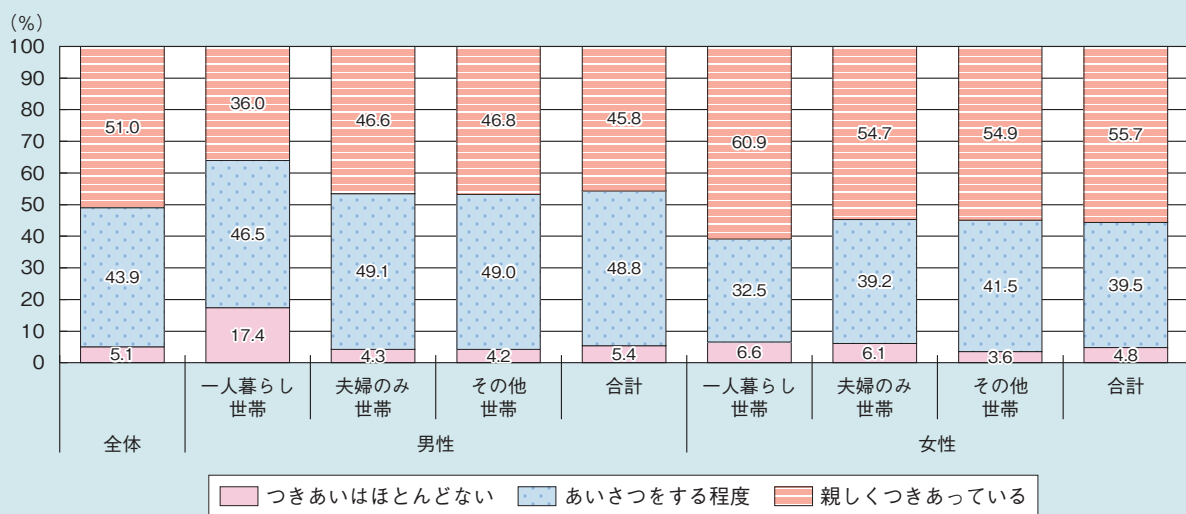
また、独立行政法人都市再生機構が運営管理する賃貸住宅約75万戸において、単身の居住者で死亡から相当期間経過後（1週間を超えて）に発見された件数（自殺や他殺などを除く）

は、平成25（2013）年度に194件、65歳以上に限ると129件となっている（図1-2-6-18）。

オ 孤立死（孤独死）を身近な問題と感じる高齢単身者は4割を超える

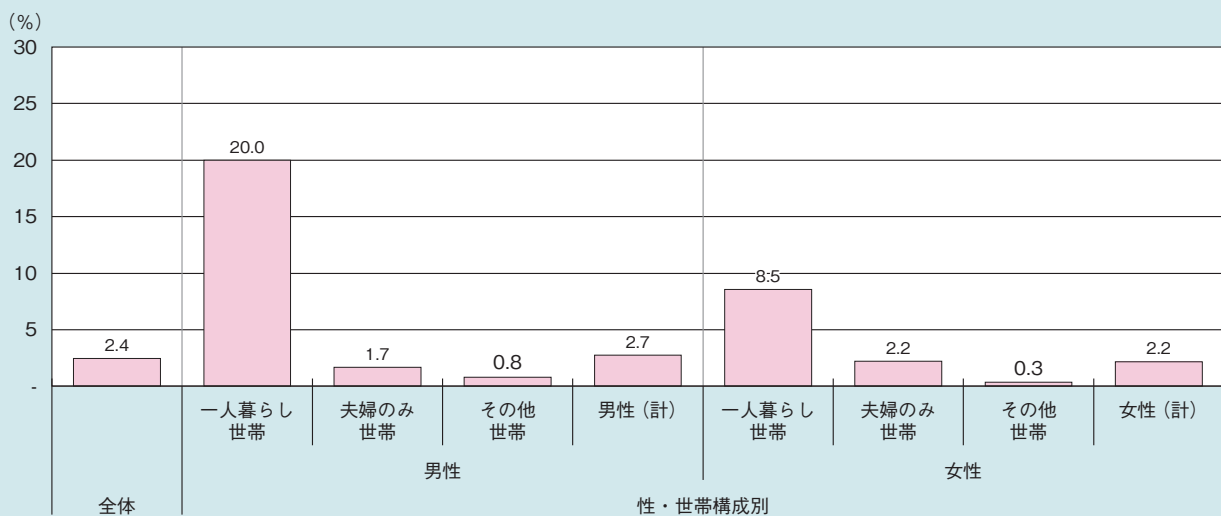
誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見されるような孤立死（孤独死）を身近な

図1-2-6-15 近所づきあいの程度



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）
 (注) 対象は60歳以上の男女

図1-2-6-16 困ったときに頼れる人がいない人の割合



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」（平成23年）
 (注) 対象は60歳以上の男女

問題だと感じる（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）人の割合は、60歳以上の高齢者全体では2割に満たなかったが、単身世帯では4割を超えている（図1-2-6-19）。

(6) 高齢者の自殺

平成26（2014）年における60歳以上の自殺者数は10,290人で、前年から各年齢階層とも減少している（図1-2-6-20）。

図1-2-6-17 東京23区内で自宅で死亡した65歳以上一人暮らしの者

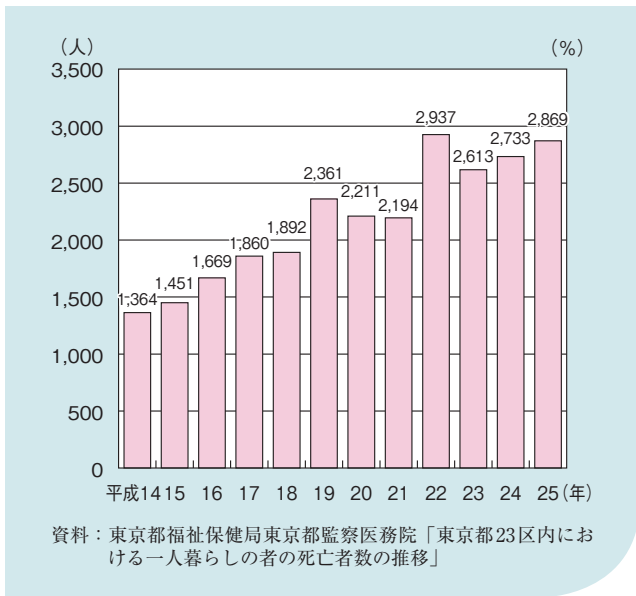


図1-2-6-18 単身居住者で死亡から相当期間経過後に発見された件数

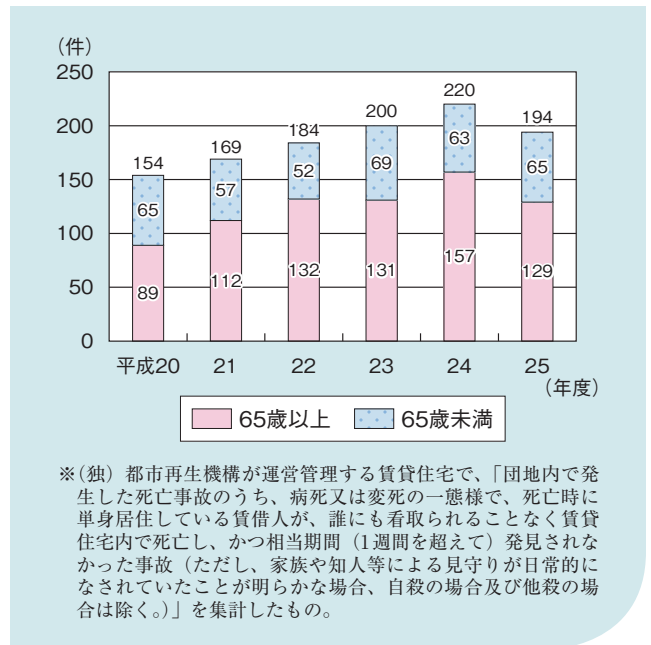


図1-2-6-19 孤独死*を身近な問題と感じるものの割合

